

▶ 展覧会詳細は
こちらから




大有田焼振興協同組合『万葉陶器人形』平成二十三年




館蔵品展

7人の
万葉歌人から
たどる万葉集




令和6年

1/13(土) ~ 3/3(日)

 奈良県立万葉文化館

〒634-0103 奈良県高市郡明日香村飛鳥10
TEL: 0744-54-1850 FAX: 0744-54-1852 HP: <https://www.manyo.jp>

【主催】奈良県立万葉文化館
 【開館時間】午前10時～午後5時30分(入館は午後5時まで)
 【休館日】毎週月曜日(祝日の場合、翌平日休館)
 【観覧料】一般: 600円(480) 高校・大学生: 500円(400)
 小・中学生: 300円(240) ※()内は20名以上の団体割引
 その他割引は万葉文化館までお問い合わせください。



吉井東人《讃酒》



上村淳之《佐保の詩》

『万葉集』は奈良時代末頃に成立したと考えられている我が国最古の歌集です。長歌・短歌・旋頭歌など 4500 首余りの歌が収録されており、採られた歌人は天皇から庶民まで幅広い階層におよびます。『万葉集』は 100 年以上の長い期間に詠まれた歌が収められているため、今日、歌風を検討する際には、舒明朝から壬申の乱までを第 1 期、壬申の乱以後奈良遷都（和銅 3 年）までを第 2 期、奈良遷都から天平 5 年までを第 3 期、天平 6 年以降淳仁天皇の天平宝字 3 年までを第 4 期というように 4 つの時期に区分しています。

本展では、それぞれの時期の代表的な歌人である額田王、柿本人麻呂、山部赤人、山上憶良、大伴旅人、大伴坂上郎女、大伴家持という 7 人に焦点を当て、「万葉日本画」や古典籍、陶磁器人形といった当館のコレクションを展示します。万葉歌人たちの業績や生涯を美術作品から紹介し、万葉歌が詠まれた時代をたどるものです。

▼ 7 人の万葉歌人たちはこちら



大山忠作《大伴家持》



藤井康夫《近江夕景》



小山硬《熟田津—額田王》



大森運夫《貧窮問答歌》



今野忠一《富士》

7 人の万葉歌人から たどる万葉集

関連イベント

担当学芸員によるギャラリートーク **要観覧券・申込不要**
 日時：1月14日⑧14時～
 1月17日⑩15時40分～、2月21日⑩15時40分～
 場所：万葉文化館日本画展示室



【交通案内】

- ※駐車場にかぎりがあるため、ご来館には公共交通機関をご利用ください。
- 近鉄橿原神宮前駅東口または飛鳥駅より
周遊バス（かめバス）乗車（約 20 分）→万葉文化館西口下車すぐ
奈良交通バス案内 テレフォンセンター TEL0742-20-3100
- 近鉄橿原神宮前駅よりタクシー（約 10 分）

奈良県立万葉文化館

〒634-0103 奈良県高市郡明日香村飛鳥 10
 TEL: 0744-54-1850 FAX: 0744-54-1852 HP: <https://www.manyo.jp>